

研究実施のお知らせ

2025 年 1 月 21 日 ver.1.1

研究課題名

先天性小腸閉鎖症の術後胃管排液と X 線写真に関する研究

研究の対象となる方

2012 年 1 月から 2024 年 12 月の間に、島根大学医学部附属病院で先天性小腸閉鎖症と診断され、小腸閉鎖症根治術を受けられた方

研究の目的・意義

先天性小腸閉鎖症において、手術の後の胃管から排出される消化液（以下胃管排液）、および X 線写真の所見についての報告がありません。そのため、胃管排液の量、性状、X 線写真上の腸管ガスの様子から、正常な経過か否かの判断が難しく、胃管を留置する期間が長引いたり、哺乳量の増量が必要以上に時間がかかったり、異常を検索するための頻回な X 線写真を撮影したりするなど、過剰な医療介入が行われやすく、入院期間が延長するなどの影響が考えられます。

本研究により、手術後の標準的な胃管排液の量や性状、X 線写真上の変化が示されれば、胃管の留置期間および X 線写真の回数を最小限にし、哺乳量増量を早期に進め、早期退院が目指せるようになると考えられます。

研究の方法

2012 年 1 月から 2024 年 12 月の間に、先天性小腸閉鎖症と診断され、島根大学医学部附属病院で小腸閉鎖症根治術をうけた方について、診療記録から以下のデータを収集します。

- 1) 出生時体重
- 2) 在胎週数
- 3) 手術時日齢
- 4) 小腸のうち、閉塞していた位置と閉塞形態、閉鎖箇所の上流の小腸の径と下流の小腸の径との差
- 5) 1 日当たりの胃管排液の量
- 6) 1 日当たりの胃管排液の性状（血性、胆汁性、胃液様、凝固乳など）
- 7) X 線写真上の所見（腸管ガスの量）
- 8) 手術日から、哺乳開始日までの日数
- 9) 手術日から、哺乳が確立した（ミルク 100ml/kg/日以上となった）日までの日

数

10)手術日から、退院日までの日数

研究の期間

2025 年 2 月 25 日～2026 年 12 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座 真子 絢子

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2025 年 10 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座 真子 絢子

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2232 FAX 0853-20-2229